

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済 学部	身分	教授
氏名	唐 成		
NAME	Tang Cheng		

1. 研究課題

（和文）金融リテラシーと中国の家計の借入行動－CHFS データを用いた実証研究－

（英文）Financial Literacy and Household Borrowing Behavior in China:
Empirical Studies Using CHFS Data

2. 研究期間

2年間（ 2018-2019 年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）近年家計負債が急速に拡大している中で、本論文は家計の金融行動を決定する重要な要因の1つである金融リテラシーと家計の借入行動の関係に着目し、CHFS2015と2017データを用いて金融リテラシーが実際の家計負債にどれほど影響を及ぼしているのかを実証的に明らかになった。本論文の主なファインディングは以下の通りである。第1に、金融リテラシーが高いほど、家計は負債を持つ傾向が確認されたものの、金融リテラシーは経営負債や住宅負債にはほとんど影響を及ぼさないことが明らかになった。このことは、家計にとって、住宅所有が家計負債の規模の拡大をもたらしている重要な要因であるにもかかわらず、金融リテラシーの高低とは関係ないことを示唆し、中国的な特徴と言える。第2に、消費負債に対しては、金融リテラシーが強い正の影響を及ぼしており、所得や純資産、持家戸数などをコントロールしても、また頑健性検定や内生性検定をしても、一貫して確認することができた。したがって、本論文の推計結果は理論通りに、金融リテラシーが急速に拡大している家計の消費金融市場において、重要な影響を与えていることが実証的に明らかになったと言える。

（英文）

This paper explores the impact of financial literacy on household's debt decision by China Household Finance Survey (CHFS) data in 2015 and 2017. The empirical results show that financial literacy had a significant effect on the debt decision. These findings suggest that financial literacy can assist households in making better and more suitable debt decisions.